

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	もぐさ台保育園
施設所在地	日野市百草1002番地の4
自治体名	日野市

1. 活動のテーマ

<テーマ>

『感覚』（砂）

<テーマの設定理由>

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）

・自園には約20名が入れる砂場があり、日々の園庭あそびの中で乳児が自然と足を運ぶ、親しみのある遊び場となっている。戸外に出ると砂場に向かい、座り込んで手で砂を触ったり、握る・落とす・集めるなどの動きを繰り返して楽しむ姿が多く見られることから、砂場での関わりを通して興味・関心をさらに深められるよう本テーマを設定した。砂という身近な素材に触れる中で、「さらさら」「しっとり」「くっつく」「崩れる」などの感触や質感の違いを全身で味わい、乳児期に大切な感覚的な経験を豊かに重ねていけると考えたためである。

2. 活動スケジュール

令和7年12月から令和8年3月 1か月毎に数回

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

・乳児が自ら興味のある道具を選んで遊べるよう、カップやスコップなどの砂遊び用具を手の届きやすい低い位置に配置し、種類ごとに分けて分かりやすく準備した。

・同じ種類の道具を複数用意することで、取り合いになりにくい環境を整え、安心して繰り返し遊びや試行錯誤ができるようにした。

・砂の感触や性質の違いを十分に味わえるよう、乾いた砂と湿った砂の両方に触れられる場を設けるとともに、落ち着いて遊び込めるスペースを確保した。

・安全面に配慮し、砂場の利用人数や各クラスの利用時間が重なりすぎないように朝の打ち合わせ等で調整を行い、一人ひとりがゆったりと遊びに取り組める環境を整えた。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

・乳児期の砂遊びでは、「作る」「見立てる」ことを目的とするのではなく、砂に触れることそのものを遊び（探究）として位置付けた。子どもが興味や関心に応じて自由に関われるよう、乾いた砂や湿った砂など状態の異なる砂を用意し、「さらさら」「しっとり」「くっつく」「崩れる」といった感触や質感の違いを、手や指、足を使って十分に確かめられる環境を整えた。

また、「すくう」「落とす」「握る」「なでる」「掘る」「集める」などの動きを、子どもが満足するまで繰り返し試せるよう見守り、一人ひとりの興味や発見に寄り添いながら関わった。必要に応じてカップやスコップなどの道具を提示し、遊び方や試し方が自然に広がるよう援助した。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

・乾いた砂を指の間から落として見つめたり、握っては崩れる様子を何度も確かめたり、湿った砂が手にまとわりつく感覚に気づき、立ち止まって手を見つめたりする姿が見られた。また、「（みて）」「あっ」「ん！」などの声や表情、身振りで発見や気づきを伝えようとしたり、保育者の表情を見て確かめたりする様子も見られた。

・友だちの手の動きをじっと見て真似をしたり、同じ場所で並んで砂に触れながら互いに視線を交わしたりするなど、緩やかな関わりも見られた。保育者は安全に配慮しながら子どもの姿を見守り、「さらさらだね」「こっちはしっとりしているね」「くっつくね」など、子どもの気づきに寄り添う言葉を添えて共感した。また、必要に応じてカップやスコップなどの道具を手渡し、一人ひとりの興味や関心が継続し、主体的な探究が深まるよう援助した。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・乳児期の砂場遊びは、「何かを作る」ことよりも、砂に触れて感触や性質の違いを確かめること自体が探究であることを改めて実感した。子どもたちは、乾いた砂や湿った砂の違いを手指で繰り返し確かめながら、感覚を通して理解を深めている姿が見られた。

・保育者が遊び方を示すのではなく、子どもの興味や気づきに寄り添い、砂の状態や道具などの環境を整えることが、主体的な探究を支えることにつながると感じた。また、感触や気づきを言葉で受け止めて共感することで、安心して試行錯誤を繰り返し、友だちとの模倣や並行遊びにもつながることが分かった。

・今後も、完成したものではなく、子どもが確かめ、試している過程を大切に捉え、一人ひとりの興味や関心に寄り添った援助を行っていきたい。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	もぐさ台保育園
施設所在地	日野市百草1002番地の4
自治体名	日野市

1. 活動のテーマ

<テーマ>

『感覚』（ボール）

<テーマの設定理由>

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）

ボールあそびは、園庭でも室内でも出来る身近な遊びである。安全を確保した上で、ボールを出すようにしているが ボールを見ると子どもたちがワッと集まってくる。自園では、広いホールを使用してのびのびと楽しむことも出来る。

身近なあそび・活動を通して様々な「感覚」を感じ、豊かに経験できるように環境設定する。ボールあそびは「投げる」「転がす」「追いかける」等の動作を通して、様々な「感覚」を養える。また友だちと「かして」「いいよ」等のやり取りを通じての成長も期待できるため。

2. 活動スケジュール

令和7年12月から令和8年3月 1か月毎に数回

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

・ホールを広く使えるように机などを廊下へ移動し、ボールが机の下に入り込まない環境を整えた。また、ボールを使って安全に集中して遊べるよう、ホールの使用時間をクラス間で調整し、じっくりと遊び込める環境を整えた。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

・自由に投げたり蹴ったりしながら、ボールに十分触れ合う時間を設けた。また、異年齢児との交流にもボール遊びを取り入れ、一緒に活動を楽しめる機会を設けた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

ホールでは、乳児3クラス合同で輪になって座り、ボールを転がしながら、自分のところに来たボールを友だちへ転がすやり取りを楽しんだ。1歳児クラスの子に2歳児クラスの子が「はい、どうぞ」とボールを手渡す姿も見られ、異年齢児との温かな関わりの中で、みんなでボール遊びを楽しむことができた。

その後は、自分でボールを投げて転がったボールを追いかけたり、友だちとペアになってボールを投げ合ったりするなど、それぞれが思い思いの遊び方でボールに親しみ、楽しむ姿が見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・ソフトボールを使用したことで、当たっても痛みが少なく、安心して十分にボール遊びを楽しむことができた。一人で遊ぶだけでなく、ペアや大人数での遊びも取り入れることで、さまざまな場面でボールに親しみ、投げる・転がす・受け取るなどの動きを通して、ボールに対する感覚を育むことができたと感じる。今後も継続して活動を取り入れることで、ボールへの興味や関心がさらに深まり、友だちとの関わりを楽しみながら遊びを広げていく姿につながることを期待している。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	もぐさ台保育園
施設所在地	日野市百草1002番地の4
自治体名	日野市

1. 活動のテーマ

<テーマ>

『感覚』（ボール）

<テーマの設定理由>

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）

身近なあそび・活動を通して様々な「感覚」を感じ、豊かに経験ができるように園庭がある立地を活かして、探究活動を行う。ボールあそびは子ども達の好き遊びの一つである。力いっぱい蹴ってみたら、どこまで届くのか？ボールのどこを蹴れば、遠くまで跳ぶのか？などの子どもからどうして？どうなる？と興味湧いて出てくるような活動を行っていきたい。また、簡単な試合形式でも遊ぶことにより、友だち同士で協力をして進めていく中でやりとりの成長も促すことができるため。

2. 活動スケジュール

令和7年12月から令和8年3月 1か月毎に数回

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

・園庭にサッカーゴールとボールを準備した。あわせて、ボールを使って安全に集中して遊べるよう、園庭の使用時間をクラス間で調整し、十分に遊び込める環境を整えた。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

・順番にサッカーボールを蹴ってゴールを狙う遊びを取り入れた。また、異年齢児との交流の中でもボール遊びを行い、互いにに関わりながら活動を楽しめる機会を設けた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

・サッカーゴールに向かってボールを蹴り、ゴールを狙うことを楽しんでいた。ゴールが決まると「やったー」と喜び、外れてしまうと残念そうな表情を見せながらも再び列に並び、繰り返し挑戦する姿が見られた。ゴールが決まると「先生！ぼく入ったよ」と嬉しそうに伝え、保育者や友だちと「すごいね！やったね！」と喜びを共有することで、さらに意欲を高めながら楽しむ様子が見られた。

また、異年齢児との交流では、年上の子が年下の子にボールの蹴り方や遊び方を優しく教える姿が見られ、互いに関わりながら活動を楽しんでいた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・一人で遊ぶだけでなく、ペアや大人数でさまざまな形でボール遊びを楽しむ中で、ボールを蹴る力加減や方向を調整するなど、ボールを操作する感覚が育まれていると感じた。また、サッカーゴールを設置したことで、目標を意識しながらボールを蹴る経験につながり、繰り返し挑戦する中で意欲的に活動へ参加する姿が見られた。今後も継続して活動を取り入れ、ボールへの興味や関心をさらに深めるとともに、試合形式の遊びなども取り入れながら、友だちと協力したりルールを楽しんだりする経験へとつなげていきたい。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	もぐさ台保育園
施設所在地	日野市百草1002番地の4
自治体名	日野市

1. 活動のテーマ

<テーマ>

『感覚』（砂）

<テーマの設定理由>

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）

・自園には20名程が入れる砂場があるので、その砂場を使って活動に取り組んでいく。園庭で好きな遊びをして良いという自由時間では、クラスの半数の子どもたちが砂場へと走っていく。砂場は、とても好きな活動である。砂場に対しての興味を深められるよう、テーマを設定した。そして、砂という身近な素材を通して様々な「感覚」で感じ、豊かな経験ができるように探究活動を行っていきたいため。

①触角の違いを感じる（濡れている・乾いている等）

②視覚で変化する不思議を感じる（形を作る等）

2. 活動スケジュール

令和7年12月から令和8年3月 1か月毎に数回

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

・子どもたちが自由におもちゃを選べ、手に取りやすいよう、目の高さにケースを設置し、種類ごとに分類して配置しました。また、十分に遊び込めるよう同じ種類のおもちゃを多めに用意し、取り合いが起こることなく遊びに没頭できる環境を整えました。さらに、砂場で遊ぶクラスが集中しすぎないように、朝礼などで各クラスの活動内容を調整し、安心して遊べる環境づくりにも努めました。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

砂の手触り・湿り気を感じ、砂の状態によってお団子作りや型抜きができることを体験。山や川、トンネルを作る上でも砂の状態に興味を持てるよう、保育者が子どもの疑問や発見によってさらに投げかけたり見守ったりすることでもっと探求したい意欲に繋げるよう実施した。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

・園庭に出ると、すぐにお店屋さんごっこを始めるグループや、一人で黙々と砂場遊びを楽しむ子など、それぞれが思い思いに遊びを展開していた。これまで同じようなお店屋さんごっこになりがちだったが、新しい砂場遊具が加わったことで、子どもたちの遊びが自然と広がり、砂に触れながらさまざまな経験を重ねている様子が見られた。

・「上手にアイスができたよ!」「先生、見て!たくさんできたからアイス屋さんをやってるよ。」「いらっしゃいませ。」などのやり取りが見られ、異年齢児も興味を持って遊びに加わっていた。「なんで、この砂だと形ができないんだろう。」「こうすると、上手にできるよ。」と、普段関わる機会の少ない子ども同士が自然に関わり合い、教え合う姿が見られた。

・砂がうまく固まらず困っている子どもに対して、保育者が「水を入れてみようか」と提案すると、砂の状態が変化していく様子を不思議そうに見つめ、砂の性質への興味を深めていた。

・一人で遊んでいる子どもは、砂団子を作ったり、砂が落ちていく様子を繰り返し観察したりしていた。その姿から、白っぽい砂と黒っぽい砂の落ち方や質感の違いにも目を向けられるよう、保育者が声を掛けるなど働きかけを工夫した。



砂がパラパラ落ちていくのを見えています。
速い時と遅い時があるね。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・友達と一緒に遊ぶ中で、それぞれが自由に遊びを楽しみながら、友達の姿を見て「やってみたい」という気持ちが生まれ、自然と真似をする姿が見られた。しかし、自分ではうまくいかず、友達はどううまくできる場面を経験することで、「どうしてだろう」「どうやったらできるのだろう」と考え、砂の性質や遊び方への興味・関心を深めることができた。また、普段何気なく触れている砂にも、手触りや湿り気などの違いがあることに気付く姿が見られた。

普段は保育者に遠慮しがちな子どもも、「水を使ってみたい!」と自分の思いを伝え、意欲的に活動へ参加する姿が見られた。友達や保育者との関わりの中で、砂の感触や性質を十分に楽しみながら試行錯誤を重ね、砂遊びへの理解や興味を深めることができたと感じている。今後も子ども一人ひとりの気づきや疑問を大切に、主体的に探究できる環境を整えていきたい。